

# 21 富士通(株)、(株)富士通ソフトウェアテクノロジーズ、(株)Eyes,JAPAN▶浪江町【福島県】

## タブレットを利用したきずな再生・強化

福島県浪江町では、原発事故により全国へ分散避難を余儀なくされ、つながりの希薄になってしまった町民同士、町民と町との絆をつなぎとめるべく、町民世帯(約6,500世帯)へタブレット端末を配布。アイデアソンやインタビューを通じて町民を巻き込みシステムを開発・改善しながら、町民の生活再建に向けた支援を続けている。

### 背景

福島県東部・太平洋沿岸に位置する浪江町は、東日本大震災および原発事故の被害を受け、依然として全町民(約2万人)が全国へ避難を余儀なくされている。元々の住み慣れた場所から離れて生活することの苦勞に加え、希薄化してしまったことによる震災関連死も増加している。町は「どこにいても浪江町民」の言葉のもと全国で暮らす町民への行政サービスを続けているが、広域・分散避難している町民へ十分に情報提供を行い、失われた地縁を補う為には、ITツールの活用が有効であると考えタブレット端末配布を決めた。同様の取り組みは近隣町村でも実施されているが、利用率が低迷している事例が多くあり、町民が毎日使いたくなるサービスを設計する必要があった。

### 概要

- 一般社団法人コード・フォー・ジャパンと協力し、福島県内外に暮らす町民へのインタビューや、町民参加型のワークショップ(アイデアソン・ハッカソン)を10回ほど開催し、町民のアイデア・想いをシステムの設計に強く反映させた。
- タブレット向けに浪江町オリジナルアプリ「なみえ新聞」「なみえ写真投稿」などを、アジャイル開発手法を使って開発した。開発とユーザーヒアリングを短いサイクルで繰り返し、タブレット初心者でも操作しやすいシンプルなUI・機能を実装した。
- パブリッククラウド(Amazon Web Services)やオープンソースMBaaS(Personium.io)を活用してシステム基盤を構築。アプリケーションは他の町村でも使えるよう、オープンソース化し、共有ウェブサービス(GitHub)上でソースを公開している。



毎日夕方、浪江町からのお知らせ、福島県内のニュースを配信するニュースアプリ。どこにいても浪江町の情報が手に入る。



町民が自分の撮影した写真に一言を添えて投稿できるアプリ。投稿した写真とコメントは「なみえ新聞」に掲載。ウィザード形式で、初心者でも簡単に投稿できる。



タブレットの使い方を勉強するアプリ。役場職員自ら操作方法をコントラ仕立ての動画で解説し、楽しく学ぶことが出来る。学んでいくごとに、白帯から黒帯へ昇格する仕掛け。



マスクットキャラクターも町民に公募して制作。名前は「うげどん」。親しみやすいキャラクターが愛され、独自にTシャツやバッジを作る町民も現れている。

### アピールポイント

- ①徹底した町民目線  
ユーザーインタビューやアイデアソン・ハッカソンを通じて、本当に使ってもらえるタブレットを追求
- ②民間人材の採用  
町民の声を的確に仕様へ落とし込むため、IT企業での経験豊富な人材(エンジニア)を役場で採用
- ③オープンな調達  
不透明になりがちな選定プロセスにおいて、事業者プレゼンや採点表などをすべて公開し、納得感のある業者選定を実現
- ④アジャイル開発  
ユーザーテストなど町民からのフィードバックを即座に開発へ反映  
(富士通、富士通ソフトウェアテクノロジーズ、Eyes,JAPANは、アプリ開発事業者としてプロジェクトに参画)

### Key Person

- 浪江町役場 復興推進課 主幹 小島 哲氏：平成25年度に福島県庁より浪江町へ出向して現職。事業の旗振り役としてプロジェクトを主導した。
- 浪江町役場 復興推進課 吉永隆之氏：元IT企業勤務のエンジニア。Code for Japanフェローとして、プロジェクトに参画、手腕を発揮した。
- (一社)コードフォー・ジャパン：浪江町の想いに共鳴し、「ともに考え、ともにつくる」スタイルで、ワークショップ企画・運営、開発サポート等を行った。



小島 哲氏



吉永隆之氏

富士通株式会社 <http://www.fujitsu.com/jp/>

☎ 0120-933-200 富士通コンタクトライン(総合窓口)

受付時間9:00~17:30(土曜・日曜・祝日・当社指定の休業日を除く)